

人体構造学 I		講義	教授 西川 彰	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング	12311101

### 1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の構造学（解剖学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、骨格系並びに筋系といった運動器の構造を各部位別に学ぶことから始め、その後は、中枢神経および末梢神経に分けて神経系を学習する。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

### 2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な部位についてはテキストの解剖図をスケッチし、その構造学的特徴を記入した「人体構造学レポート」を作成し提出課題とする。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス、人体構造学概説（細胞、組織、器官）	9. 神経系①（神経組織の基本構造）
2. 運動器①（骨組織と筋組織の基本構造）	10. 神経系②（脳）
3. 運動器②（頭部・体幹の骨と関節）	11. 神経系③（脊髄）
4. 運動器③（頭部・体幹の筋）	12. 神経系④（脳神経）
5. 運動器④（上肢の骨と関節）	13. 神経系⑤（脊髄神経）
6. 運動器⑤（上肢の筋）	14. 神経系⑥（自律神経）
7. 運動器⑥（下肢の骨と関節）	15. まとめ
8. 運動器⑦（下肢の筋）	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体構造学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

### 6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約 30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約 70%程度）により総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『解剖学 第2版』、医歯薬出版、2008年  
 その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

### 9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。  
 講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

人体機能学 I		講義	教授 西川 彰	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	12311103 12531205	

### 1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の機能学（生理学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、生理学の基本を学ぶことから始め、その後は、筋の生理、神経および運動の機能、感覚の機能、内分泌・生殖・体液の機能について学習する。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

### 2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な人体の働きについてはその機能を図示し、生理学的特徴を記入した「人体機能学レポート」を作成し提出課題とする。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス、生理学とは①（細胞の構造と機能、組織・器官と生体の機能系）	9. 感覚の生理①（感覚の一般的な特性、特殊感覚）
2. 生理学とは②（生体の恒常性と統合機能、体液の区分と組成）	10. 感覚の生理②（体性感覚、内臓感覚、痛覚）
3. 筋の生理①（骨格筋）	11. 内分泌（内分泌腺とホルモン、それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき、ホルモンによる内部環境の恒常性維持）
4. 筋の生理②（心筋、平滑筋）	12. 生殖（性分化、男性生殖器、女性生殖器、妊娠と分娩）
5. 神経の生理①（神経信号の伝達、神経系の構成）	13. 血液①（血液の成分と組成、止血）
6. 神経の生理②（脳の高次機能、内臓機能の調節）	14. 血液②（血液型、免疫）
7. 運動の生理①（運動の調節、運動神経と運動単位、脊髄による反射とその調節）	15. まとめ
8. 運動の生理②（脳幹による運動調節、高次運動機能）	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体機能学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

### 6. 授業における学修の到達目標

本授業では、生理学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能と病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70%程度）により総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『生理学 改訂第4版』、南江堂、2020年  
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

#### **9. 受講上の留意事項**

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

生理・心理機能測定法		実習	教授 大森 肇 教授 竹内 成生
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11301102 12312102 13312101

### 1. 授業のねらい・概要

スポーツを科学的に検証するためには、生理・心理の変化とパフォーマンスの関係性を捉える必要がある。一般に生理機能や心理機能の測定は難しいと考えられがちだが、測定の理論的背景を理解すれば、実際には明解かつ平易であることが理解できる。

本講義ではスポーツ科学研究、生理学研究、心理学研究といった複数の研究分野で多用される指標を題材として取り上げ、テーマごとに理論的背景、研究計画、測定方法、解析方法、データの見方までを取り扱う。一連の学習を通じて、科学的なデータの扱いや見方の基礎を習得することを目標とする。

### 2. 授業の進め方

教員2名による講義と実習形式によって進められる。講義ではパワーポイント、スライド、プリント、板書、視聴覚教材を適宜使用し、実習では学生が互いに実験者と被験者を体験する。また、各自データ処理を体験し、データの見方や結果に関する討議も行う。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス：本講義の概要と評価法（両教員）	9. 生理学的研究の概略（大森：講義）
2. 心理学的研究の概略（竹内：講義）	10. 生理学的手法（大森：講義と実習）
3. 生理学的手法（竹内：講義と実習）	11. 生理学的計測（大森：実験）
4. 心理学的計測（竹内：実験・調査）	12. 生理学的解析①（大森：実習 [データ整理]）
5. 生理学的解析①（竹内：実習 [データ整理]）	13. 生理学的解析②（大森：実習 [データ解析]）
6. 生理学的解析②（竹内：実習 [データ解析]）	14. 生理学的考察（大森：講義と実習）
7. 生理学的考察（竹内：講義と実習）	15. まとめとフィードバック（大森：生理学領域）
8. まとめとフィードバック（竹内：心理学領域）	※実際の教員指導順序等の詳細は改めて告知する

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各講義前には予めテーマについて調べておくこと(1時間)。また、テーマ毎の簡単なレポートを必ず教員の指定する方法と期間に提出する必要がある(1時間)。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出後、質疑および要点等の解説を行う。

### 6. 授業における学修の到達目標

各テーマに関する教授と実際の実験を通じて、科学的なデータの扱いや見方の基礎を習得することを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業態度 (20%)、積極性 (30%)、各回の課題とレポート (50%) を基本として、総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

特に指定しない。参考図書は必要があれば授業中に適宜紹介し、プリントを配布することがある。

### 9. 受講上の留意事項

本講義では生理学・心理学的測定と解析をおこなうことから、測定機器を取り扱うことがある。測定機器は精密機械で

あること、ならびに人を対象として機器を操作することから、慎重かつ真面目な態度で受講すること。本講義を通じて、人間の生理機能と心理機能への理解とその面白さを体験してほしい。

本講義は夏期集中講義を予定しており、各自が実際に測定体験をすることが重要かつ評価対象ともなるため、前期当初のガイダンス夏季集中講義期間等の説明を実施する。なお、履修希望者が定員を超えた場合には抽選となる可能性があるため、希望者は必ず参加すること。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。竹内は障害を対象とした研究所における経験を踏まえて指導する。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

保健医療福祉論		講義	非常勤講師 一戸 真子	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの専門選択科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	11322117 12331101 13332202	

### 1. 授業のねらい・概要

保健, 医療, 福祉・介護に関連した関係法規と制度の基礎知識や理論について講義する。保健・医療・福祉・介護各サービスの内容や技術について学ぶことは大切であるが, これらのサービスは, 法律によって根拠づけられ, 規制され, 一定のルールのもとで役割分担されているということの重要さと必要性を学生が理解できるようになることを本講義の目的とする。さらに人々の QOL の向上には, 保健・医療・福祉・介護の連携が大変重要であり, 相互に関連性があることについても理解を深められるよう講義する。

### 2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とする。振り返りシートを活用して, 理解を深められるよう工夫する。

### 3. 授業計画

1. 保健・医療・福祉・介護各サービスの特徴	9. 健康増進法, 予防の重要性
2. 憲法第 25 条と社会保障, 医師法・各医療従事者法	10. 生活習慣病とがん対策
3. 医業と治療行為, 医業類似行為	11. 患者の QOL とセルフケア
4. 医療法, 健康保険法, 介護保険法	12. 職種間の連携・チーム医療の重要性
5. 後期高齢者医療制度, 障害者総合支援法	13. 障害者対策, 難病対策
6. 診療報酬制度・介護報酬制度, 公的扶助	14. 地域包括ケアシステム
7. 医療機能, 病床機能, 介護機能, 在宅	15. 利用者中心の保健・医療・福祉・介護システムの構築と連携
8. サービス利用者の人権, 自己決定・尊厳	

### 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回の授業テーマに関するテキストを読み込んでおくことと, 各授業後に指示する課題についてまとめておくこと。これらの予習・復習の時間には 2 時間以上必要とする。

### 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

試験実施後, 解答などを掲示板に掲示する。

### 6. 授業における学修の到達目標

- 保健・医療・福祉・介護各サービスの特徴と制度の果たす役割について説明できる。
- 保健, 医療, 福祉各関連法規および医療従事者各法について説明できる。
- 保健医療福祉制度のあり方について説明でき, 保健・医療・福祉・介護の連携の重要性について説明できる。

### 7. 成績評価の方法・基準

期末試験 (60%), レポート (40%) によって評価する。

### 8. テキスト・参考文献

テキストは, 『保健医療福祉制度政策論』(2026) 日本看護協会出版会 (ISBN9784818029712) を使用するのて, 毎回の課題に必要である。その他必要な参考書等は適宜紹介する。

#### **9. 受講上の留意事項**

保健・医療・福祉・介護に関する各法制度等を知っておくことは、今後患者や患者家族経験、要介護者や介護者を経験する際にも役立つことが多いので、関心を持って積極的に受講して欲しい。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、医療施設や福祉施設評価に関する実務経験を活かして指導する。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復の理念と歴史		講義	講師 小向 啓介
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング 12331102

### 1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は国民医療の一端として、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。柔道整復術の現代的意義について「患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と高度の医学的知識の修得が必須である。」と言うように、崇高な理念について学ぶことで柔道整復の進歩発展につながるものと考えられる。

また、医学史は現代医学の礎となり今後も学ぶべき点が多い学問領域だと考える。また、柔道整復師は時代に遅れないよう常に研究していくことが重要である。これらのことから授業のねらいとして、先人たちが積極的に取り組み築き上げた歴史と柔道整復の進歩発展のつながり学んで理解することを挙げる。

### 2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、過去の映像や記録から具体的な出来事を取り上げて、パワーポイントで説明も行う。また、理解の定着を図るため、講義の途中でグループワークの実施やレポートを作成する。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス（柔道整復師の仕事について）	8. 業務禁止と施術制限，権能と施術目的，医接連携
2. 柔道整復術および柔道整復師の沿革① （体系化・試験の施行・公認）	9. 療養費と受領委任払い制度，心得，倫理綱領
3. 柔道整復術および柔道整復師の沿革② （学校教育・法の成立・指導要領の制定）	10. ここまでの授業振り返り，小テスト
4. 柔道整復術および柔道整復師の沿革③ （法の大改正・授業時間の変遷）	11. 現代の柔道整復師について （現代の柔道整復師の業務について）
5. 柔道整復術および柔道整復師の沿革④ （柔道整復師と柔道），授業振り返り，小テスト	12. 柔道整復師の理念について① （柔道整復師の理念と柔道整復学総論について）
6. 業務範囲と施術限界，X線と附帯決議	13. 柔道整復師の理念について② （柔道整復師の理念と柔道整復学各論について）
7. 業務範囲 （条文，指導要領，柔道整復術）	14. 柔道整復師の理念について （柔道整復師の理念と柔道整復学各論および解剖学について）
	15. 授業の総復習，小テスト

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に教科書を読み内容を把握する。前回の授業内容を復習しておく。復習には教科書や授業ノートなどを参考にする。なお、これらの準備学修には、1時間程度を要する。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、重要箇所について解説を行う。訂正箇所があった場合は後日、改めて提出日を設定する。

### 6. 授業における学修の到達目標

柔道整復の理念と歴史について十分に理解し、最終的に柔道整復術の現代的意義について自らの考えをまとめてレポートを作成すること。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（20%）およびレポート（40%）、小テスト（40%）によって、評価する。

## 8. テキスト・参考文献

- ・柔道整復学・理論編改訂7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ・テキスト，参考文献，資料等は必要に応じて配布する。

## 9. 受講上の留意事項

受講の要件としては，難しい人名漢字，難読漢字などが多く出てくるので，辞書や電子辞書を持込可とする。柔道整復師として患者さんに口頭説明を行う予行演習の一環として、グループワークでは積極的な発言・聞き取りやメモ取りに努める。その他，疑問や不明な点については，遠慮なく質問してください。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は柔道整復師免許，柔道整復師専任教員資格を有し，整形外科勤務，整骨院院長としての実務経験を活かして講義を行う。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道実技		実習	講師 小向 啓介	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目		科目ナンバリング	12331103 12531107

### 1. 授業のねらい・概要

大学における「スポーツ」はスポーツの実習とスポーツ科学の理論の学習を通して、自己のライフステージや心身の状態（健康、体力、運動能力）に適したスポーツを生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成できる能力を目的としている。

柔道は日本を発祥とするオリンピック競技種目であり、健康と体力の維持、増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身に付けることができる競技である。本講義では学科の特性を踏まえ、その精神、体力、歴史、礼法、基本動作、受身、投技、固技、乱取りなどを通して、中学・高等学校保健体育教育職員、柔道整復師になる上で必要な技能の習得をねらいとする。

### 2. 授業の進め方

授業の初回に、柔道で発生する外傷について詳細に説明を行い、安全に柔道を行う意識を持ってもらう。初回以降の授業の流れ・内容として、柔道着の着方と礼法の指導／柔道修行における受身の重要性の理解と実践：後方受身、側方受身、前方受身の学習～前方回転受身の学習／受身の復習ならびに受身の応用練習、足技、腰技、手技の学習と応用練習／固技：抑え技の学習と応用練習／などこれらを行う。尚、毎回の授業時に礼法の確認、準備運動、各種受身を必ず行い柔道精神の理解と外傷発生防止に努める。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス（柔道の歴史、礼節、発生する外傷）	9. 固技の基本動作
2. 柔道着の着用、礼法、受身（後受身、横受身）	10. 固技（袈裟固・肩固・横四方固）、投技復習
3. 基本動作（受身：後受身・横受身・前回受身）、固技（袈裟固）	11. 受身、約束乱取
4. 基本動作（受身：前受身・前回受身）、固技（袈裟固、肩固）	12. 受身、約束乱取（固技あり）
5. 受身、基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し方）	13. 礼法、受身、投技、固技の復習、約束乱取
6. 受身、投技（背負投・体落・払腰）	14. 礼法、受身のテスト、固技、投技の総復習
7. 受身、投技（小内刈・大内刈・大外刈・出足払）	15. 投技・固技のテスト、解説および再試験
8. 投げ技の応用練習～立技の約束乱取	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、「体育学習における武道」のうち、特にp7～26を読み、柔道指導について理解をしておくこと。実技前はストレッチなどの準備運動を全身に対して十分に行い、身体を柔軟に動かせるように準備をすること。

「体育学習における武道（文部科学省）」

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/sports/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/04/26/1333611\\_03\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/04/26/1333611_03_1.pdf)

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各段階で習得したことを実践させて確認する。その都度、解説をして再練習をさせる。試験は受身（第13回）、基本動作・投技・固技（第14回）に分けて行う。試験後は適宜フィードバックを行う。再試験は第15回に行う。評価にあたってはレポート課題を提示する（第12回が、本レポート課題は「柔道の授業を安全に行うための具体的な取り組み」と題して作成・提出させる。レポート課題提出後に採点を行い、授業時に解説を行う（第15回）。

## 6. 授業における学修の到達目標

健康と体力の維持，増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身につけること。また，柔道精神，体力，歴史，礼法，基本動作，受身，立技，固技などの技能の習得を到達目標とする。さらに安全に対する意識を学び実践する。

## 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（50%），および最終テストの結果（下記①②③）によって評価する。

- ① 身体の安全を守れる体力・技術・知識を身につけているか（受身の試験 15%）
- ② 柔道の基礎的知識を理解して，その基本的技術を習得しているか（投技の試験 15%）
- ③ 講義内に行われる応用練習について理解しているか（20%）

## 8. テキスト・参考文献

講義内で参考資料を配布。

## 9. 受講上の留意事項

互いの負傷発生を防ぐため以下の項目を厳守すること。

- ・手足の爪は短く切っておくこと。
- ・ネイルは付けないこと。ネイルを付けていたら外すこと。
- ・装飾品（指輪，ネックレス，ピアス，ブレスレット，ミサンガなど）は授業前に必ず外しておくこと。
- ・髪の毛の長い学生は髪を結び襟につかないようにすること。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は講道館柔道二段を有し，柔道指導歴などの実務経験を活かして実技指導を行う。て実技指導を行う。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。